

第2回東日本連携・創生フォーラムinさいたま 東日本連携・創生（首長）フォーラム 議事録

〔開催概要〕

1 開催日時 平成28年11月28日（月）14:00～17:00

2 場 所 パレスホテル大宮（さいたま市大宮区）

3 出席者

工藤壽樹	函館市長
佐藤光彦	盛岡市副市長
内藤克幸	秋田市観光文化スポーツ部次長
小林香	福島市長
品川萬里	郡山市長
佐藤栄一	宇都宮市長
君島寛	那須塩原市長
岸良昌	みなかみ町長
篠田昭	新潟市長
高橋正樹	高岡市長
本川祐治郎	氷見市長
米田聡	南砺市ブランド戦略部長
細田大造	金沢市副市長
清水勇人	さいたま市長

ファシリテーター 藻谷浩介 株式会社日本総合研究所調査部主席研究員

司会 安田佑子

オブザーバー	青森市	松島豊	経済部経済政策課主幹
	八戸市	船田泰寛	商工労働部次長
	八戸市	鈴木伸尚	商工労働部東京事務所所長
	仙台市	遠藤和夫	総務局東京事務所所長
	三条市	長谷川正実	経済部部長

来賓 松村武人 財務省関東財務局金融安定監理官
永嶋善隆 農林水産省関東農政局次長
深瀬聡之 経済産業省関東経済産業局総務企画部長
上田洋平 国土交通省関東地方整備局副局長

出席者計 152人

〔議事次第〕

- 1 開会挨拶
- 2 議題討議
 - (1) 東日本連携広域周遊ルート等の検討について
 - (2) 連携拠点、情報発信拠点の設置について
- 3 来賓総評
- 4 フォトセッション
- 5 閉 会

〔配布資料〕

1. 議題1. 資料 東日本連携広域周遊ルート策定事業（案）
2. 議題2. 資料（仮称）東日本連携支援センター機能運営（案）

〔議題取りまとめ事項〕

- 1 東日本連携広域周遊ルートについて

2020年東京五輪、19年ラグビーW杯、18年平昌（ピョンチャン）五輪等の国際大会開催はもう間もなくであり、2020年東京五輪を当面の目標とし、年内に研究会を立ち上げスタートする。

あわせて、交通事業者（JR）にも新幹線等の要望についても共同で行う。

- 2 連携拠点、情報発信拠点の設置について

「連携拠点の設置について」各自治体から賛同いただいたので、今後各自治体のニーズを十分に把握し、連携拠点を設置していく。ただ、連携拠点を設置するだけでなく、より広範囲な協力体制が大宮駅周辺で取れ、また活用しやすい連携拠点にしていく。

議題 1 東日本連携広域周遊ルート等の検討について

○清水さいたま市長 本議題は昨年のフォーラムで方向性の示されました広域周遊ルートについて検討を行うものです。なお、本議題は10月に連携都市の局部長会議で検討し上程されています。連携各都市の地域資源を相互に活用して東日本の広域周遊ルートを策定するにあたり、2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据え、これを第一の目標年として連携各都市での調整を進めていきます。

東京オリンピック・パラリンピックでは民間事業者の推計によると、延べ約80万人の外国人観光客の来訪が見込まれております。現在日本を訪れる外国人観光客のほとんどが空港を利用しており、東京オリンピック・パラリンピックでは多くの外国人観光客を首都圏空港だけでは受けきれない状況です。これは東京から地方へ、また地方から東京への誘客動線を創出する最大の好機とも捉えることができます。東京オリンピック・パラリンピックを見据え、外国人観光客を羽田、成田のみならず地方空港からの出入国を想定して、観戦前後に新幹線で繋がれた連携各都市を観光する広域周遊ルートの策定を目指してまいります。東京オリンピック・パラリンピック後も東日本連携都市を訪れてもらえるレガシーと言えるような広域周遊ルートが広く認知されるように連携各都市で一丸となって取り組みを進めます。

まず第一歩として、東日本連携広域周遊ルートの策定に向けた研究会を設立し、各市町で現在取り組んでいる事業、また周辺自治体との連携事業の情報交換など成功事例の研究を行うとともに、観戦前後の観光客の誘導と受け入れ態勢を強化するための施策の協議などを行うことを提案します。東日本連携都市として国や交通事業者に対して要望活動、東京オリンピック・パラリンピックに向けた新幹線の臨時便や大宮駅始発便の新設、停車駅の拡大などについて要望を行いたいと考えております。ゆくゆくは、この東日本の連携広域周遊ルート研究会において東日本連携周遊ルートの検討を重ねることにより東京周辺から連携各都市へ、また連携各都市から東京への誘客動線を創出して地域活性化のため自ら動き出していく民間企業の活力を引き出すような仕組み作りができればと考えております。

○藻谷ファシリテーター まず自治体の観光の連携ですが、新幹線の開業により北海道の南の端から一気に首都圏の北の端になった函館ですが、思った以上に格段に便利になっていることに改めてびっくりしました。あと、非常に

たくさんのお客さんが利用している。改めて北海道新幹線開業の威力を思い知ったわけですが、工藤市長、函館からのご意見をお願いします。

- 工藤函館市長 函館市は3月26日に北海道新幹線が開業し、開業前と比べると北海道と本州を行き来する人たちが約2倍に達し、人の流れが活発化しています。

一方で北海道は非常にインバウンドが増加しており、函館市も2020年までに、100万人を目標にインバウンドの誘致に取り組んでおります。インバウンドは一時的爆買いから日本文化に触れたいという人たちが増え、様々な取り組みを行っているところです。アジアの人たちは、4泊5日が主流で、欧米の場合はもっと長期となりますが、同じところに1泊しかしません。1泊していただくため、他の県と連携をして4泊5日や1週間のルートを作るということが非常に大事だと思っています。

函館市としては南北海道だけではなく4、5年前から青森市、弘前市、八戸市と函館市の4市で青函圏観光都市会議というものを立ち上げて、新幹線の開業からインバウンドの誘致を協力して行い、効果が出始めています。今年度から函館、登別、札幌の3市で、北海道のゴールデンルートを作ろうと取り組みが本格化しています。国内観光とインバウンドをある意味では分けながら両方を観光振興に取り組んでいきたい。

このフォーラムの取り組みによって、東日本エリアにおける新たな観光の流れというのを創出されることを望んでおります。ゴールデンルートである東京、京都、大阪へ外国人は最初8割くらい行くため、東日本、他の地域に広めていくための工夫というのが非常に必要だと思っています。とりわけアジアの人たちについてはリピーターが増えています。そのリピーターを東日本の我々の周遊ルートにいかにして呼び込むかが非常に重要だと思っています。

このルートの開発のためには、北陸、新潟、北海道といきなり組むというのはなかなか難しいのですが、手始めに北陸新幹線、あるいは上越新幹線から大宮駅を経由して、そのまま東北、北海道に乗り入れる、逆に北海道新幹線や東北新幹線が、東京駅じゃなくて大宮を経由して新潟や金沢に向かう、といった取り組みをぜひ検討していただきたい。

- 藻谷ファシリテーター 広域連携で4泊5日ルートを作る場合の取り組みというのは旅行商品やサイトを作成、ムック本を出すことなど色々ありますが、

何を行っているのでしょうか？

- 工藤函館市長 サイトの作成や、パンフレットを海外に持って行くなどを青函圏で行っています。それから札幌、登別とも同じ試みが始まります。誘致活動にもお互いに市長が出かけて行きます。道ではなく市が主体で動いています。
- 藻谷ファシリテーター 市が主体にならないと無理ですね。
- 工藤函館市長 そうですね。そのため、サイトのPRのため台湾・中国から旅行会社や航空会社を招待するなど、色々なことを行っています。国内でも旅行商品を国内のエージェントに売り込んでいます。
- 藻谷ファシリテーター ありがとうございます。さて、続きまして、北陸新幹線が開業して広域観光周遊のハブとなっている富山県の高岡から高橋市長お願いします。
- 高橋高岡市長 新高岡駅を中心として、県内の周辺6市で連携中枢都市圏、とやま呉西圏域を結成いたしました。海を抱える氷見市から山の方、南砺市、五箇山まで抱える、大きな平野部から抱える大変魅力的なエリアだと思っております。この6市の連携による幅広い広域ルートを提案したい。このエリアは、南には岐阜県・飛騨地方、北には石川県・能登地方を控え、高速道路により結ばれており、高岡、新高岡駅から、60分から90分の範囲内で移動できる範囲であり、素晴らしい観光資源をぜひともこの北陸新幹線で味わっていただきたい。特にこのエリアでは、昨年文化庁の日本遺産に高岡市や能登地域も選ばれています。さらには今年予定されているユネスコの無形文化遺産では、飛騨地方で2つ、富山県内では3つ、それから能登地方に1つ、この新高岡駅、北陸新幹線のエリアの周辺だけでも5つの世界遺産が新たに生まれます。このエリアについて新幹線を利用してしっかりとアプローチしていきたいと思っております。

今月、仙台発金沢行きの直通列車が実現しました。一つは大宮駅、さいたま市を結節点として二つの新幹線がつながったということで、この大宮駅を始点とか、あるいは着点にするような新しい可能性がこれから生まれてくるのではないかと考えております。もし大宮発着ということが実現すれば、大きな制約が取れて増便も可能になり、また各駅へ色々なタイプの列車が停車することを期待しております。

それからインバウンドについては、東北新幹線、上越新幹線、北陸新幹線

と空港による連携をぜひ考えていきたい。これまでも北陸新幹線に停車する駅を持つ都市と色々な連携を行っているが、これをベースにしながらも提案のような研究会、そして周遊ルートの協議会といったところへ結びつけていただくのは大変素晴らしいことだと思っており、この研究会の発足、また協議会の結成に向けての動きに大賛成します。

○藻谷ファシリテーター ありがとうございます。すでに仙台発金沢行きは臨時として走ったということですね。

○高橋高岡市長 そうですね。実績がございます。

○藻谷ファシリテーター 大宮駅に新幹線ホームが3つあり、6番線までであることから折り返しが可能ですね。新横浜では無理ですが、大宮だと出来るということで、逆に大宮終点にすると本数も増やせるだろうというご提言です。

○高橋高岡市長 大いに期待したいと思います。

○藻谷ファシリテーター 上手く乗り換えていただければ大宮発着は、可能はずですし、事実オリンピックの時には絶対必要だと思います。

さて、続きまして、同じく北陸新幹線の終点、金沢の細田副市長お願いします。

○細田金沢市副市長 金沢に21世紀美術館という現代アートの美術館がありますが、昨年度の来館者が237万人、東京の国立博物館、科学館を抜いて全国で一番多いということで、大変多い来館をいただいております。特に欧米系のお客様が金沢に大変増えてきたというのが特徴でございます。今ほど、この会も2020年の東京オリンピック・パラリンピックをとというような話でしたが、その一年前にラグビーのW杯があります。欧米系の富裕層も多く訪れると聞いておりますので、これも一つターゲットにおいてはいいかかと思えます。

大宮を中心にして仙台から金沢の直通運転にも大いに期待をしているところですが、一方で北陸方面から東北方面の相互の交流も大事であると思えます。明後日、11月30日に金沢のホテルが連携して金沢市長とともに仙台の方に伺い、相互の誘客について話します。その際、金沢市長の方から提案させていただきたい内容が広域観光でございます。北陸・飛騨・信州を3つ星街道と言い、この3つ星というのはミシュランのグリーンジャポンという3つ星の観光地が、金沢、南砺、白川郷、高山、松本にあり、新幹線から二次交通でバスの増便も最近著しく進んでおります。こうした民間と連携のと

れた、3つ星街道のような二次交通を含めた取り組みを行い、来年度設立予定の研究会などでも情報共有いただきたい。

- 藻谷ファシリテーター ラグビーW杯のご指摘をいただきましたが、オリンピックの前には、黄金の3年が続きます。その道の人しか興味がないと言っても、非常に世界的なものですから、やはり東日本に集中的になるということで、やるべき事が沢山あるということです。

ラグビーといえば岩手県釜石もありますが、岩手県盛岡から佐藤副市長が来ていただいておりますので、お話をお願いします。

- 佐藤盛岡市副市長 函館の工藤市長からも、ひとり勝ちが難しい時代だというご指摘がありました。今後の連携を考えたとき、現在広域観光圏や連携中枢都市圏という取り組みを行っていますが、今後の連携の中にこれらの取り組みをどう組み込んで、回遊効果を実現するかということです。

盛岡へ来る教育旅行について、函館から来る方は減っているかもしれないが、札幌から来る方は増えています。なぜかというところ、やっぱり北海道の新幹線に乗ることが非常にポイントとっておりますので、教育旅行は増えていると考えております。

それと私ども何が変わったといえば、岩手国体がございます。レガシーとは言いませんけれども、スポーツツーリズムやホストタウンの実績が残りました。2019年のW杯の話も出ましたけれども、我々はカナダの色々なウィンタースポーツのチームのホストタウンとしての名乗りを上げて、頑張っていきたい。いずれにしても、インバウンドでも回遊効果を狙いたい。そして特に道南地域と東北、そして大宮と組んでいけば我々にもきっとチャンスが生まれると思っております。

- 藻谷ファシリテーター 函館工藤市長のご発言でもありましたが、これまで北海道の教育旅行は一番南の函館に泊まっていたのですが、新幹線利用で一気に青森、盛岡に行く人が増えています。
- 工藤函館市長 逆に函館は、これまで修学旅行は青森と岩手、盛岡でしたが、今度は宮城松島や日光へとなっているので、これからその流れは逆に加速する。
- 藻谷ファシリテーター 一歩先へ行くということですね。
- 工藤函館市長 だから我々は、盛岡、青森だけでなく今度は宮城とか栃木や福島をターゲットにしていく。

○藻谷ファシリテーター 栃木は大きなコンテンツの塊ですので、東京以外の人が来ることが広がっているのではないかと思います。

だんだんに終点の方から来たのですが、途中で大変なコンテンツをお持ちの福島の小林市長、お願いいたします。

○小林福島市長 我々がこの取り組みを行うにあたり京都、大阪を巡るゴールデンルートに匹敵するような、いわゆる東日本ゴールデンルートと呼べるようなものを作っていけたらと思います。その前に何か共通のテーマを掲げる必要があるのではないかと。本日参加の各自治体には色々歴史、特色、文化、食があるわけですがけれども、それぞれ関連するところを連携して訴えられれば良いと思っています。例えば福島市であれば、春には花見山という桜で有名なところがございます。山形あるいは東北各地に秋田、盛岡、青森、弘前などにも桜の名所がありますので、連携できれば良いと思います。

それから、福島は食という点では果物の産地でして、さくらんぼに始まり、桃・ぶどう・梨・りんごがあり、果物の宝石箱とも呼ばれております。オリンピックの時期は桃の時期であり、ぶどう・梨に少しかかる時期と思うのですが、食もテーマに訴えられれば良いと思っています。

そして、本日参加の各自治体の中に温泉で有名なところが参加しているかと思っていたのですが、福島市内にも県庁所在地ですが3つの温泉地があります。海外のお客さんにも温泉なども楽しんでいただけたらと思うところです。そしてまた、福島県の県北地域は養蚕で栄え、福島市は生糸の集積地として栄えたところです。

こういうような産業面、あるいは少し歴史的なことも含め、それに関連する文化として明治時代中期に建てられた芝居小屋も福島市内にあり、ここで歌舞伎の上演なども行っているところがございます。あるいは市内、県内の古民家を集めたような施設もあり、そういうようなことをテーマ的に掲げて少し皆さんと一緒に何か観光商品なりを売り出せば良いかなと思っていますので、非常に皆さんとの連携を期待しているところです。

○藻谷ファシリテーター やはりゴールデンルートです。考えてみますと、第一ゴールデンルートは共通点がない。旧東海道以外、何の共通点もないと言います。第二ゴールデンルートには実は共通点が多々あると。いずれも福島市が特に有名ですが、花、果物、温泉、織物、いずれもファンがたくさんいます。これを繋げれば、きちんとプロモーション出来る。ぜひ商品化できる

とよろしいと思います。

○小林福島市長　また福島市としては、福島県全体の風評被害を払拭しなければいけないと考えております。次のオリンピックは復興五輪とも言われていますけれども、この東北全体の復興のためにも福島イメージも改善していく必要がありますし、そういうアピールを次のオリンピックの機会に全世界に向けて発信できればと考えております。

○藻谷ファシリテーター　日本では福島の話と言っていますが、実は世界的に見ると日本の問題、東日本全体の問題ですので、連携してやらなくてはならない。

○小林福島市長　そうですね、はい。

○藻谷ファシリテーター　ありがとうございました。

さて、市役所自体が連携のハブのような富山県氷見、本川市長お願いいたします。

○本川氷見市長　東京に陳情の折に、私の新幹線の後ろに氷見の青年が乗っていきまして、お子さんに学校を休めと言って神宮球場に清宮選手が出る早稲田実業対履正社の試合を見に行くと。しかし夜は、埼玉スタジアムに日本対サウジアラビア戦を見に行くと、こういうことがありました。新幹線が開通して、海外の方に来てもらう、地域の方に来てもらうことだけでなく、市民が新幹線を活用して他地域の文化に触れて、そして良質な体験をして我がまちを良くしてくれる。こういう利用で非常に好ましいと思いました。今、氷見では新高岡駅の利用を促すために、補助をして新幹線に乗ってもらう事業も行っております。あるいは富山県の市長会も今年は川越市を視察して岩手県のオガール紫波に行くなど、実際に東北の新幹線まで行き来しやすくなってきたということは事実です。

次回以降、今日の函館の話もありましたが旅行会社が入っていただいたりして、首長同士で具体的な商品の開発などができれば、またより一歩進むと思います。

○藻谷ファシリテーター　ありがとうございます。具体的な進展として少し実務の民間の方を入れて協議を進めていくべきではないかというご提言をいただきました。お互いに行くという事も、それが実は大きな発見を生むという事ですごく重要な感じがします。特に東日本は東京が強力なのでみんな東京しか知らないという現象が強く起きている気がします。

さて、最初に空港の不足の問題についてさいたま市長から指摘がありました、空港をお持ちの交通の要所郡山、品川市長お願いいたします。

- 品川郡山市長 観光はインバウンドと富裕層ですが、子ども達の修学旅行という目から考えてみたい。郡山市というのは城下町でもありませんし、古い奈良、法隆寺みたいなものありませんが、安積疏水があります。明治初期に作られた安積疏水で、発展の礎が作られたまちです。これが日本遺産になりました。それから、世界かんがい施設の遺産にもなり、郡山そのものが日本遺産として売り込んでいこうかと思っております。その時に誰に来てもらうか、子ども達に来てもらえるまちということが、観光で必要ではないか。若い世代、子ども連れの世代向けの創生フォーラムということも必要と感じました。

それから、東日本ではなく別な地理概念として、文化概念を考えても良いと思いました。一つは、やはりテロもない安全な国だということと思います。もう一つは、インバウンドを分析し、世界の中の日本になることが必要と思います。

身近な話になりますと、東北線が黒磯で分断され、かなりの時間待ち合わせとなります。観光シーズンにはインバウンドの観光客が在来線に乗るので、JR 東日本には、新幹線だけでなく、同じ会社の中ですから仙台と東京でよく話し合っ、黒磯で乗り継ぐにしても、待ち時間を短くすることで、在来線を楽しむ旅行客にとっては大変親切なことになる。

それから、海外から日本に来る人は我々以上に日本史について勉強している。そういう深いディープジャパンというか、深い理解をして来る外国人に本当の日本の姿を理解してもらってそれを海外に発信してもらおうという、「日本に行ったらこうだったよ」ということも大きく見て安全で安心な創生、日本になる。

- 藻谷ファシリテーター ありがとうございます。日本海側から太平洋側に引いているのは、安積疏水だけですね。そういう歴史について、世界的にも評価される場所です。昔の歩くルートも外国人のリピーターが増えてくると、もっと利用が増えるというご提言をいただきました。
- 品川郡山市長 それから、一言忘れしました。間もなく6年になりますけれども、この間、福島県からたくさんの県民が避難しており、特に篠田市長の新潟市には、たくさんの支援をいただきました。この場を借りて厚く御礼を申

上げます。

これからこの観光のゴールデンルートもいいのですが、非常時のお互いに助け合う連携というのもこれからますます大事ではないか感じております。

- 藻谷ファシリテーター 非常時の連携ですね。なぜ外国人の方が急に日本に興味を示したのか。大きなきっかけは東日本大震災だと思います。東日本大震災の時に、特に東日本の人たちが秩序正しく助け合っていた。これは世界中の一般庶民の心を打ったということがあります。

北陸新幹線が開業し、新潟は大変だと噂がありましたが、政府統計では新潟県の観光宿泊客延べ客数は非常によく伸びています。よろしく願います。

- 篠田新潟市長 2020年東京オリパラが決定した日から、まずロンドンオリンピック・ロンドンパラリンピックを勉強しました。ロンドンのオリンピックの特徴は、一つはスポーツの振興ですが、それと並んでイギリス全土で18万件の文化プログラムを行いました。東京でも文化スポーツコミッションを立ち上げました。我々も文化プログラムを良質なものにし、レガシーとして地域に残るように芸術評議会の準備を進めています。

文化プログラムを展開するだけでなく、インバウンド対応のものも考えたい。そうしたら新潟の若者が、フランスのナントが始めたラ・フォル・ジュルネというクラシックコンサートを見て、この日本伝統芸能版をやろうということで、アートミックスジャパンという名で4回ほど行いました。これをもう少し充実させると、東京オリパラの期間、このアートミックスジャパンを新潟で開催すると相当なアドバンテージになるのではないかと。またそこに、お互い助け合えば、地方で日本の伝統文化が味わえる、そんなことも文化プログラムの、東京オリパラ時点の到達点としてどうかと思っています。

そしてもう一つ、ロンドンオリパラの時に、ロンドンプラスという運動を行った。ロンドンだけでなくもう一つどこかまちを楽しんでくださいと。これも非常に良いアイデアなので我々はそれをもう少し進化させ〇〇プラス東京でどうだろうと。例えば金沢プラス東京、例えば新潟プラス東京、例えば福島プラス東京、こういうかたちで大混雑の東京にいる時間をできるだけ短くしたほうが良い。

そして成田、羽田はもう満杯になりますので新潟空港に入ってきていただく。しかも世界の富裕層はプライベートジェットで来ますから、その時には

新潟空港、プライベートジェット空港を活用いただきたい。新潟空港から来ていただき、上越新幹線沿いで越後湯沢に行ってみようか、いやみなかみはどうか、もうちょっと長野の方に行ってみようというような、新潟プラス東京が、新潟プラス水上プラス長野プラス東京というようなかたちにしていく。

○藻谷ファシリテーター ありがとうございます。プライベートジェットで来る方は専門の民間旅行者に必ず相談しているので、そこと皆さんとのネットワークが出来ますと、本当に彼らが納得できる沿線のコンテンツを紹介出来るということは十分あり得ます。

さて、沿線のコンテンツといえば上越新幹線沿線の最大のコンテンツ基地とも言える、みなかみ町から岸町長ご無沙汰しております。

○岸みなかみ町長 オリパラの時のバスケット等々で、みなかみに宿泊して、さいたまスーパーアリーナに40分で着くので、そういう形での連携は当然出来ると思っています。また新幹線を活用することについては、さいたま市に中核になってもらいたいと思っています。

上毛高原駅は、新幹線の開業以来、日本中の新幹線の駅で一番人口が減っていると思います。これはなんとかしないといけないと思っています。

つい先日、11月25日に温泉総選挙のリフレッシュ部門で、みなかみ18湯が第一位になりました。みなかみの資源は、環境・自然・農村景観・森林景観等々含めた自然景観と温泉だと思っています。みなかみに泊まっていたく他、例えば鬼怒川に泊まってからみなかみに来て、それから東京へ行くというようなこともあります。3泊4日なり4泊5日を新潟空港から入っていただいて羽田から出るなど、この連携というのは、もっと連携することによって良い商品ができると思います。

もう一つだけ言わせていただくと、みなかみに来るインバウンドの1位が台湾でその次がタイです。これについては、集中して営業を仕掛けています。みなかみの観光地あるいは自然を売り出していきたいので、連携に期待しています。

○藻谷ファシリテーター ありがとうございます。湘南新宿ラインで渋谷から大宮まで一番早くて40分、大宮から北に行くと上毛高原まで40分です。上毛高原には尾瀬や温泉もあり、日本人以上に外国人の方は評価するはずなので、活かさない手はありません。

さて、いかにこの東日本の沿線が多様かつポテンシャルがいかに大きいか

ということを改めて思いました。さいたま市長いかがですか？

○清水さいたま市長　さいたま市も埼玉県も非常にインバウンドということでは大変弱いです。インバウンド促進事業で、地方創生の補助金を活用し、台湾にターゲットを絞って、さいたま市から東日本の地域に繋げていく旅行企画を取り組んでいます。オリンピック・パラリンピックの際にはバスケットやサッカーがさいたま市に来て、夜中に、さいたまスーパーアリーナで試合が行われるとか、時間帯が日本国内だけを意識した時間帯ではない可能性があります。さいたま市には、宿泊施設が極めて少なく、受け切れないという可能性が高いです。東日本の都市に宿泊をしていただいて、その後の旅行に繋げていただく取り組みをオリンピック・パラリンピックで使っていきたいと考えております。

さいたま市は観光的な資源でいうと盆栽美術館や鉄道博物館などの施設があり、例えば鉄道ということであると新潟市とか、あるいは他の都市でも鉄道とゆかりの深い都市などもあります。

また、さいたま市は日本一の桜並木を作ろうと活動していますが、桜は大体一週間おきに開花前線が上がってくるので、出来れば桜の開花に繋げてたくさん地域を周っていただけるようにしていきたいと考えております。情報共有をしながらつながりを持って魅力あふれる観光資源にしていきたいと考えております。

○藻谷ファシリテーター　ありがとうございます。ここでやはり国際観光ということで、さいたま観光国際協会からコメントをいただきたいと思うのですがよろしいでしょうか？

○さいたま観光国際協会清水会長　この東日本連携フォーラムをきっかけに、自分たちでこの観光資源をたくさん持っていても、なかなか発信できない部分があると思うので、各市長及び関係者の皆様に、こういうところがもっと発信できるのではないか、こういうところが連携出来るのではないか、そういうご意見を頂戴できればありがたいと思います。

○藻谷ファシリテーター　取りまとめですが、資料1にある研究会については各都市の取り組みを背景に、背後にある事務方や民間の力を活用して、具体的なプロジェクト、実践に向けてプロジェクトの計画を固める研究会にする必要がある。具体的には、〇〇プラス東京がありました。埼玉で行われるサッカー・バスケット・プラス例えば、みなかみ、プラス新潟、プラス函館、プ

ラス金沢、プラス高岡、プラス宇都宮、まさに那須塩原という具体的な商品を作ってですね、どんどん進めていくということが良いのではないかと。ぜひ研究会を早期、事務方及び可能であれば民間事業者の方を入れて作ると同時に大きな計画というよりは個別のプロジェクトを具体的に走れるところから走らせた方が良いのではないかと。商品化サイトの充実、あるいはパンフレット、ムック本作りというようなことを含めて発信のプロジェクト、誘客のプロジェクトを進めてはどうでしょうか。

○工藤函館市長 ただフォーラムで話して懇親を深めるだけでなく、具体的に何かに取り掛からないと。だからこれだけ広い範囲でいきなり全部のルートは難しいので、幾つかのルートを地域ごとに作らないと駄目ですね。

○藻谷ファシリテーター 研究会の中で、ぜひ早急に動けるプロジェクトから、プロジェクトの案というものを民間、事務方を含めて固めて出来る範囲で参加型としてやって良いのではないかと。自分たちが参加できる、これだったら乗りたいねというメニューがいくつか同時に進行していて、それごとに連携していけるような取り組みを作ることがよろしいのではないかと。

○清水さいたま市長 出来ることから具体的なかたちで進めていくことが良いと思いますので、賛同していただける自治体同士で連携して、また民間事業者にも入っていただいて、研究会やプロジェクトを設立する。

○藻谷ファシリテーター 研究会を全体で立ち上げて、その下にプロジェクトチームを幾つかぶら下げたらよいと思います。

○篠田新潟市長 その前に2018年に平昌オリンピック・パラリンピックがある。おそらく日本で合宿が行われる。埼玉でアイスアリーナがあるところは、かなりの確率で合宿が行われると思うので、そこから仙台空港へ行くとか新潟空港へ行くというケーススタディで具体的に勉強する一つのものとして使っていければと思う。

○清水さいたま市長 みなさん、いかがでしょうか？ご賛同いただける方は拍手をもってお願いしたいと思います。（賛成の拍手多数あり）

ありがとうございました。それでは議題1については、今のように具体的な研究会を立ち上げ、その中に具体的に事業を進めていくための参加方式のプロジェクトを作りながら民間事業者にも入っていただきながら進めていくということで、2018年、19年、20年に向けて具体的に運営、動き出していきたい。

議題2 連携拠点、情報発信拠点の設置について

(以降佐藤宇都宮市長参加)

○清水さいたま市長 それでは、議題1に続いて議題2に入りたいと思います。

本議題は昨年のフォーラムで方向性の示されました連携拠点、情報発信拠点の設置について検討を行うものです。なお本議題は10月の連携都市の局部長会議で検討し上程されたものです。

東日本連携支援センターの機能という案につきましては、先に行われました局部長会議での議論を反映したものとなっておりますが、改めて首長から意見をいただき、今後、機能及び運営方法について決定し、平成30年度の開設に向けて進めていきたいと考えております。この施設は、さいたま市の思いだけではなく、各連携自治体と東日本地域の地方創生を共に担うということを考えており、それに少しでも役立てればとの思いで検討しているところですので、忌憚のないご意見を頂戴できればと思います。

本センターは本市が東日本地域を繋ぐ交流拠点として連携地域との、まちと仕事を繋ぐ発見、体験、発信の場をコンセプトとします。首都圏広域地方計画で大宮が東日本の玄関口として位置付けられ、地域と地域、人と人、企業と企業が繋がる交流拠点を目指します。また連携によって成長力の確保につながる施設としてヒト、モノ、情報の対流を生み出して、それぞれの地域の地方創生に繋がることを目指してまいります。

次に立地先であるさいたま市の特性について説明します。さいたま市は、現在人口128万人を要し生活圏内の人口は170万人以上です。現在も人口については増加傾向です。人口構成は30代から40代の働き盛りが多く、全国平均と非常に似ているということでマーケティングするには大変、適地であると考えております。大宮駅は1日の平均乗降客数が約70万人、アンテナショップが隣接している有楽町であるとか銀座駅と比較をしても高いターミナル性を有している場所でもあります。

機能は、目的性、公共性の高い地方創生機能と、認知、参加を高める誘客機能の二本の柱としたいと考えております。地方創生機能としては収益性にとらわれない情報発信や、交流サロンなどの情報コモンスペースを設置したいと考えております。また、誘客機能としては多くの来訪者への認知を高めるため誘客効果の高い、各地域の魅力商品の紹介やテストマーケティングなどを検討していきたいと考えております。地方創生機能、また誘客機能が一

体的かつ相互に作用することでより多くの方々への魅力発信が可能になるとともに、季節催事などのイベントも実施することで施設の魅力を高め、さらなる集積あるいは交流が生まれることを期待したいです。本施設が地方創生のワンストップ拠点、交流のプラットフォームとして機能するために各自治体の皆さんからは出店や、あるいは情報提供をいただき、本センターでは成果のフィードバックを実施したいと考えております。来訪者が交流を体感することで地域への直接訪問や直接購入に繋げ、住民あるいは企業同士の交流にも繋げていき、本センターを核としてセンター周辺地域の賑わいの創出も期待したいと考えております。

誘客機能は各地域の物販やテストマーケティング、あるいはイベントスペースを活用した季節ごと、地域ごとの催事、ご当地グルメや地域食材を活用した飲食機能の設置を検討します。観光カウンターは、観光情報や移住情報、クラウドファンディングなどのワンストップ窓口機能を果たす他、交流サロンでは地域間の交流や異業種交流会、ワークショップ、またビジネスマッチングなどの機能も持たせたいと考えております。

最後に本センターは、これまでにない東日本の交流の中核を担う施設として数多くの自治体が参加をしていただくことで交流、集積を生み出し相乗効果を生み出すものと期待をしております。また、地域に根ざした住民の来訪が見込まれ、より生活者に近いダイレクトな評価が伝わり地域住民との双方向の交流が可能となることで新たな賑わいが創出されるものと考えております。連携の自治体との協働によって本センターを核として東日本地域の地方創生に取り組んでいただきたいと思います。

- 藻谷ファシリテーター ご説明ありがとうございました。これは逆に連携各市の皆様が東京や関西など各地で先行してやられているところも多々あると思いますので、そういうご経験も踏まえてより建設的なご提言をぜひいただけるとありがたいと思います。

さて、那須塩原は大産業都市でもあるわけですがけれど、首都圏のすぐ横で首都圏と違う価値を出している那須塩原から、まずご発言をいただきたいと思います。

- 君島那須塩原市長 提案をいただいた広域拠点、連携拠点は、ぜひ整備をしていただければと思っています。

栃木県内の話ですが、平成24年5月から物産などの販売、PRなどを目的

とした、東京スカイツリーのソラマチの中にアンテナショップを栃木県そして県内25市町の共同で運営をしている。そしてまた、平成28年7月から、東京都有楽町駅前の東京交通会館の中にふるさと回帰支援センターという栃木県が整備したのがある。栃木暮らし仕事支援センターという栃木県内に移住、定住を勧める情報発信をしている状況です。ここには専門の相談員を配置して移住相談や就労の相談をやらせていただいている。これは那須塩原市も参加している状況です。

それと先ほど修学旅行が栃木の日光にという話があったが、栃木県の観光地は日光だけではなくて、那須そして塩原もある。こちらの方にも修学旅行のポイントとして、こういった中でお互いに発信をさせていただきたい。

○藻谷ファシリテーター ありがとうございます。すでに栃木県としては、物産の販売、移住促進、定住回帰促進と二つの機能のものをお持ちである。ただ北の拠点である大宮にもあるというのは良いことであるという話です。その場合、定住促進・物販の機能というのは、どういうことをお考えですか？

○君島那須塩原市長 那須塩原から、大宮駅は50分弱で来られる。これだけ近いところに、魅力のある都市があるというので、連携を図るものがあると思っています。

○藻谷ファシリテーター 色々な機能を考えていけるということですね。

さて、高岡市長に定住促進という観点から富山というのは非常に老舗でもあり課題が大きいところですが、ご発言をいただきたいと思います。

○高橋高岡市長 現在富山県が、有楽町の交通会館や日本橋にアンテナショップを作り、高岡も積極的に参加しています。

那須塩原の君島市長から話ありましたが、回帰センターについて、県が考えており、そこに高岡市としてもブースを設け、専門の専任の職員も置き、定住のワンストップを行おうとしています。ただ、一方でこの10月に連携中枢都市圏、とやま呉西圏域を設定し、関係6市で調印したところです。この圏域の幾つかのテーマがある中で、首都圏に定住のための広域的な圏域としての定住窓口を作る構想を持っています。そういう中で、今回の提案の幾つかのテーマが実現するならば、積極的な関わりを持って行きたい。

大宮駅、このさいたま市のロケーションが首都圏の中心地にあるということから、この大宮駅が、利便性が高いことから、大いに注目をするところで、意見を取り入れていただいて、良いかたちのセンターが実現すればありがた

い。

○藻谷ファシリテーター 6市連携、その中で南砺市も入っていますが、窓口を設置することも進んでいて、場合によりこのさいたま市の施設も活用することも検討したいということですか。

○高橋高岡市長 場合によりと言いますか、ぜひ。そういうことが叶うようなかたちのものが、一緒にご議論して行って、出来ていけば良いなど。

○藻谷ファシリテーター さて、後半からご参加いただきまして宇都宮市長ありがとうございます。本当は宇都宮も新幹線だと近すぎるくらい、すぐそこでございますけれども、逆に人口が減って困っているまちでは全くないですけれども、宇都宮としてはいかがお考えでございましょうか？

○佐藤宇都宮市長 やはり、さいたま市の魅力というのは大きなものがあると思います。2つの新幹線の共通の駅でもあり、また1日70万人の乗降者がいること、埼玉スタジアムなど、国内だけでなく全世界に発信できる機能を持ち合わせているのが、さいたま市だと思います。そういう中で今回、誘客機能、あるいは地方創生機能の拠点が出来るとは宇都宮としても大変ありがたい。参加する自治体、都市にとってメリットが提供できれば良いと思う。

企業誘致、またはUIJターンなどについて、県が中心に行っており、那須塩原市と同じように参画しています。あとは宇都宮市として、物販をソラマチで行っています。

北海道新幹線の宇都宮停車について、函館と宇都宮の連携を取っていますが、凄く効果が表れており、そういう効果というのを今回も期待をしています。今回参加をされる市で、交流人口が行き来できるようなものに繋がっていくことも一つの魅力だと、宇都宮市としては思っています。そういう工夫をみんなで知恵を出し合って、行っていくことが良いのではないかと思います。

○藻谷ファシリテーター はやぶさは、仙台まで無停車ですが、これを宇都宮に停めて欲しいということや、宇都宮だけでなく函館からも声が上がっている。東京函館間は飛行機の方が早いのですが、宇都宮から北海道に行く手段は今まで非常に少なく、羽田を一度経由しないといけない。ところが宇都宮に停車すると、函館まで新幹線に乗れば3時間台で行ける。今までない交流が生まれるのではないかとということで函館側から積極的に働きかけもあったということですね。

単に東京に売りに行く拠点というのではなくて、都市同士の連携ということから思わぬようなことが生まれるのではないかということですね。

いわゆる東京の都心に置くのとは違う、何かその活かし方というのが議論、研究、工夫すると出てくるのではないかということをおっしゃいました。

○佐藤宇都宮市長 いつまでも東京中心は良いのですが、東京が近いからその恩恵をたくさん受けてきた宇都宮は、いつまでもそれで良いのかということを考えなくてはいけない時期に来ていますので、さいたま市や函館市など、今回参加をされている都市との連携が出来ていけば、色んな生き方が生まれてくるのだと思います。

○小林福島市長 北海道に宇都宮市長がエールを送っておられたのは承知しております。これは福島県はパッシングと思って、非常に危機感を持っております。その辺のバランスというのは十分考えていただきたい。

それから、さいたま新都心から財務省、農水省、それから関東経済産業局、国土交通省関東地方整備局の皆様もいらしている。我々は東北の地方ブロック機関ですが、福島県は北関東的地位でもあり、関東支部局の動向も非常に関心があります。この支援センターに、刊行物や新しい政策とか展示コーナーがあると下車していただいて帰るといったことも可能なので、ご一考いただけるとありがたい。

○藻谷ファシリテーター さいたま市には、新都心に関東の国出先機関がありますので、それはやはり東北、南東北の方も興味があることが多いだろうと、その連携も図れるだろうというお話でした。

さて、南砺市ですね、先ほど世界遺産、ミシュランの3つ星も出ましたが、合掌集落、五箇山がございます。前々から多々展開されていますね。いかがお感じでしょうか、ぜひご意見をお願いします。

○米田南砺市ブランド戦略部長 我々は、物販に関してキーワードがあり、「ものを売って人を呼び、人を呼んでもものを売るという」という考え方で事業を展開しています。

世の中の人々がものを購入し、あるいは来訪するときの決め手は、心に響くストーリーだと思います。例えば「世界遺産の合掌造り集落の棚田で作ったお米ですよ」あるいは「天然酵母、麴100%で作った甘酒なのでミネラル分がすごく豊富で飲む点滴というくらい元気になりますよ」と伝えるとその場で買っていかれます。そういうストーリーをきちんと伝えるという工夫が必

要です。私どもは通常の物産展、観光物産展を行う他、もう少し踏み込んで深掘りした魅力を伝えることを色々挑戦しています。

今月11月の初めに吉祥寺で展開をした事業があります。武蔵野市と友好都市関係で、吉祥寺の店舗とタイアップをし、お店の人がストーリーを語りながら売ってくれます。そのためには、事前にマッチングのイベントを行います。南砺からは生産者も来て、タイアップイベントを迎えます。期間中には南砺からゲストを連れて来て、山菜や民謡の話をしてもらいます。そうすることにより、きちんとストーリーが伝わって南砺のファンになってもらう。そしてリピーターを増やしていくという、取り組みをしています。

同じことが、大宮エリアでも十分にできます。この東日本連携の参加している都市の食材や工芸を駅周辺の店に置いてもらう。あるいはメニューを出してもらう。その取り組みがもしかしたら、この連携拠点を核にして出来ると思います。まずは現場を起こすということがすごく大事であると思います。

○清水さいたま市長　さいたま市でも、去年のフォーラム後、色々連携が始まりました。すでに民間事業者が東日本をテーマに物販・物産展・料理の提供などといった様々なイベントを企画しています。

この連携支援センターで完結するというよりは、さいたま市全体として色々な情報発信の仕方があり、特に物販についてはセンターというよりは、もっと広がりがある中で行うほうが効果も高まると思いますし、参加いただく皆さんにとってもプラスの面が多いと思います。

○藻谷ファシリテーター　まちの中をショウウィンドウとして活かすということですね。これをさいたままでやることは十分あり得るわけですね。

○米田南砺市ブランド戦略部長　この大宮の地元の皆さんと一緒にやるというのは、すごく大事なことだと思います。

○藻谷ファシリテーター　単体でこれを毎回やっているとスタッフ的にも資金的にも大変だと思うのですが、連携して各市町が少ない負担で何かできるようなことがあれば面白いというお話ですが、吉祥寺での取り組みにおいて事務局機能は、どこかにあったのですか？

○米田南砺市ブランド戦略部長　吉祥寺の個性的な店舗と、すごく繋がっているコーディネーターと出会えたというのが一番大きいです。

○藻谷ファシリテーター　コーディネーション機能みたいなものが、さいたま市側にあれば、意味があるということですか。ありがとうございます。

さて、皆様の今ご発言をされていない市長の皆様いかがでございましょうか？

○小林福島市長 この連携拠点の設置が検討されている場所に関連してお聞きします。大宮駅の東口は、西口に比べると人通りはどのようなのでしょうか。

○清水さいたま市長 東口も氷川神社や NACK5 スタジアム大宮というサッカーの大宮アルディージャのホームスタジアムがあるなど、特に土日を含めて人通りは西口と遜色ありません。

○藻谷ファシリテーター 場所そのほか、具体的な話は進んでいるのですか？

○清水さいたま市長 駅の極めて近いところに、候補地を幾つか検討しているという状況です。

○藻谷ファシリテーター 一ヶ所を決めているわけではないということですか？他に具体的な話を聞いておくべきことも多々あるかと思います。いかがでしょうか？

○工藤函館市長 場所については、さいたま市が一番詳しいので、一番良い場所を選んでいただけたらと思っています。

参考事例を紹介します。北海道新幹線に木古内駅があります。人口5千人前後の小さなまちが、新幹線の駅前に、道の駅「みそぎの郷」という物産館とレストランなどを設けました。年間30万人の来客目標が半年で50万人を達成した。商品を木古内だけではなくて周辺の町村のものも置いて、売れ筋のものと常に入れ替えている。非常にコンセプトが良く、レストランも山形の県内の姉妹町から、有名なシェフに町としてお願いしてレストランをやってもらっている。またファストフードも地元のものを使って、そこで作られているパンが、木古内町で製造したのですが、非常に人気になり、全道、全国に販売しようとなって、製造を増強しています。そういう魅力的なもので、さいたまの市民あるいは、さいたま市だけではなくて周辺の皆さんが、そこに集まって全国の沿線自治体が繋がればと思いました。

○藻谷ファシリテーター ありがとうございます。木古内は、私も拝見しましたけれども、運営に相当力を入れています。

体制づくりというか、プロの力を借りて運営しているということで、それが大事だというご指摘だと思います。JA 福島からご発言をいただきたいと思っています。

○JA 福島さくら結城組合長 商工業連携ということで、行政も加わって色々な

仕事をしております。さいたま市が連携の拠点を持つことは大歓迎です。できれば首都圏の皆様にも色々な商品を提供できれば良いと考えております。我々は女子大や郡山市内のホテルとも連携を進めている。また、他の農協とも提携しており、ぜひこういうことがあれば、私たちも参加させていただきたいと思っています。

- 藻谷ファシリテーター ありがとうございます。郡山からいわきまで、大食料生産拠点をまとめられている農協ということで、さいたまの市場に大いに関心があるというお話でした。

民間の方、経済という話が出ていましたけれど、さいたま商工会議所の会頭のご発言をいただければと思います。

- さいたま商工会議所佐伯会頭 インバウンドは、確かにさいたま市は少ないですが、観光では鉄道博物館や盆栽があります。また世界盆栽大会が来年の4月に開催され、ツール・ド・フランスさいたまクリテリウムや国際マラソンもあります。それからサッカーはプロサッカーチームが2チームあり、バスケットも世界的に有名な大会を開催しておりますので、オリンピックまでには、効果は出てくると思うのですが、東北から北陸に繋がれ、経由地になるのではないかと心配がございます。

最後にセンターですが、急いで協議をして観光だけでなく物販も含めた事ができれば、良いと思います。

- 藻谷ファシリテーター 取りまとめに向けて、提言を申し上げたい。まちの取り組みからいっても、センターという箱ができるということよりも、広域的な取り組みがまちに浸透することは大事だと思います。それと同時に、拠点はあって良いと皆さんから賛同いただきました。

実際に具体的にどういう規模で、どういうお金をかけて、誰が出してというような、詰めなくてはいけないことは多々ある。そういうことに対して具体的にその議論をできる場が必要だと思います。連携各市町の具体的なニーズをすり合わせて、まとめるという作業が必要だと思います。先ほど、観光でも研究会を作って具体的にやるという話がありましたが、実現に向けて場所、資金含めて固める、議論の場として研究会を作り、まとめるという方向が良いのではないかと。いかがでしょうか？

- 清水さいたま市長 私は、その方がいいと思います。色々なニーズや、こんな使い方をしたい、こんな役割を果たして欲しいなど、もう少し色々ご意見

を頂戴しながら、センターのみで完結するというよりは、そこも含めてまち全体で、駅周辺でお互いにプラスになるような取り組みが出来ればと思います。よろしいでしょうか？賛成の方は拍手をお願いしたいと思います。

(賛成の拍手あり)

それでは、そういう方向で議題2については、進めさせていただきます。議題1及び議題2についても、とにかくただ議論して終わりという場ではなく、実際に色々な事業をチャレンジする、できる事からやっていくという場にしていきたいと思っておりますので、引き続きご協力とご支援をよろしく願います。

来賓講評

ご来賓から総評を頂戴したいと存じます。

- 財務省関東財務局松村金融安定監理官 地域の活性化、地方創生は国の最重要課題の一つですので、我々財務省も地方創生の議論を大いに盛り上げていこうということで、議論のプラットフォーム作りをしております。具体的には地域のメインプレイヤーが一堂に会する地域経済活性化フォーラムを各地で開催しております。そのフォーラムのテーマでも観光連携というのは、よく取り上げられるテーマです。

地域のニーズに応える金融サービスを提供することにより地域が活性化し、金融機関自身の繁栄にも繋がる。そういう好循環を生み出す役割をぜひ地元の金融機関が果たしてくださいとお願いをしております。我々としては金融機関が今日のような地域連携の議論をもっとサポートできるように参加して貢献していけるよう促していきたいと考えております。

- 農林水産省関東農政局永嶋次長 地域が振興するためには地域の雇用や所得の増大、コミュニティの増大、人材の育成が必要だと思います。その手段として農林水産省も様々な策を展開しております。1つは観光やグリーン・ツーリズム、それから都市農村交流などによって、その地域で連携して、都市や海外から人に来てもらい、そしてお金を落とすシステムを作っていく。2つ目は、6次産業化などにより付加価値をつけて他の地域にいかにも高く売っていくかということです。地域の中で循環させて儲かるシステムを作ることです。

そして農林水産省でも平成26年、観光庁と農観連携の推進協定を結んで

おります。農村の交流人口をグリーン・ツーリズムなどで、どんどん増やしていきたい。このようなフォーラムを契機として広域連携の仕組みを作るといことで、農村と都市、農村と農村、そして農村と海外といった、交流をさらに深め、活用していただきたいと思います。

- 経済産業省関東経済産業局深瀬総務企画部長 行政だけではなく、商工会議所や金融機関等々も含め、今後とも連携を進めていくことを期待したいと思います。

関東経済産業局の取り組みとして、今年10月に戦略プログラムを発表しました。これはその局管内の産業が非常に多様性を失っているため、もう少し多様なものにする観点で取り組んでいるものです。この中の一つとして地域資源を活用した稼ぐ力の強化として、観光を始めとした産業の育成、支援を進めていこうということです。

今後、周知PRをしていくことが非常に重要だと思います。またその各地で行っている取り組みというものを繋げて、面的な広がりを持たせていくといったものも、必要だと思います。取り組みを上手く連携をさせ、しっかりと地域を起こしていく、より面的な広がりを持たせていくといった事に我々もご協力を出来ればと思います。

- 国土交通省関東地方整備局上田副局長 今年9月に安倍総理の所信表明演説がありましたが、その中で東京と大阪を大きなハブとしながら全国を一つの経済圏に統合する地方創生回廊を整えるという一節がありました。総理は高速道路と新幹線で結ばれたネットワークを地方創生回廊という言葉で表していますが、この東日本連携・創生フォーラムは、まさに東日本の地方創生回廊そのものであると考えております。国土交通省内・整備局も含め、この東日本連携・創生フォーラムの取り組みを地方創生回廊の一部として位置付けていきたい。

2つお願いを申し上げます。第1に個の力です。個々のプレイヤーの突破力が不可欠だと考えております。第2に仲間の数の問題です。こうした取り組みを行うときにメンバーの質とともに、量も求められると考えられます。本日は前回に比べまして参加者が増えたということですが、次回はさらに増えることを期待したい。

東日本連携創生関係の公共事業や地域振興に関しては、全力で皆様をサポートします。各地方整備局で、本日の連携フォーラムの関係の事項に関して

は、優先事項にして欲しいと伝えておきますので、安心して地元の整備局なり開発局へご相談いただきたい。

記者会見

○清水さいたま市長 今日取りまとめの内容についてご説明をしたいと思います。まず1点目、観光の連携については、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、19年ラグビーのW杯、そして18年には平昌のオリンピックなどもありますので、早急に研究会を立ち上げて、それぞれプロジェクトチームを作り民間事業者にも参画をいただき、それぞれのルートでこのゴールデンルート作りに取り組んでまいります。

そして2点目、広域連携支援センターについては、今後、各自治体のニーズを十分に把握して、それを踏まえながら広域連携支援センターを設置する。ただそのセンターを設置するだけではなくて、より広範囲な協力体制が大宮駅周辺で取れるように、提案をさせていただき、より活用のしやすいセンターにしてまいります。

また1点目の観光については、交通事業者、JRにも、新幹線等についての要望などについて共同で行わせていただきます。

○時事通信ミウラ 観光に関連した要望の件ですが、具体的にはこの参加メンバーで増発や大宮発の新規開設を共同で行うという理解でよいのか？

○清水さいたま市長 大宮始発、あるいは新幹線の停車駅の問題や、オリンピックを踏まえた深夜の増発等々について、同意いただける自治体の首長に参加をいただき、要望してまいります。

○時事通信ミウラ あと資料に、各参加自治体の資源とあるが、これも観光ルート等の素材として検討していくということでしょうか？

○清水さいたま市長 それぞれの自治体でPR動画や、パンフレット、映像、写真など、たくさん持っているもので、色々な形で活用します。複合的にルートを設定することで、より来ていただきやすい取り組みになるように、研究会で議論をしながら進めてまいります。

○時事通信ミウラ 今回2回目ですが、具体的に連携の芽として出ているものについて、報告下さい。

○清水さいたま市長 さいたま市以外では棟方志功サミットが開催されました。さいたま市では、大宮駅周辺の商業施設が東日本の連携を色々な形で支援を

するため、協議会が立ち上がりました。例えば軒先マルシェといった活動を行っています。

- 埼玉新聞エダ それぞれ研究会とプロジェクトチームを立ち上げるようになったが、いつ頃までに結論を決めて、全体で次また議論するのか？
- 清水さいたま市長 できるだけ早急に意見を伺いながら、やれることについて具現化し取り組んでいきます。
- 埼玉新聞エダ 日程的な目処は、あるのですか？
- 清水さいたま市長 年内には設立をして、それで具体的な検討に入っていきます。目標の時期等についても、皆さんと時期を決めていきたいと思えます。
- 埼玉新聞エダ 支援センターの場所ですが、場所は大宮で確定ですか？
- 清水さいたま市長 大宮駅周辺で、幾つか候補地を選んでまいります。
- 共同通信コジマ 資料に「東京五輪を目処に、観光ルートの整備を進めたい」と記載されている。この趣旨は、20年までに観光ルートを何らかの形で整備するという事よろしいか？
- 清水さいたま市長 一つの目標が2020年の東京オリンピック・パラリンピックですが、19年にラグビーW杯、18年には平昌オリンピック・パラリンピックがありますので、その前の段階で色々な実験的な取り組みが出来る。そして東京オリンピック・パラリンピックですが、それ以降のインバウンドを含めた観光のルートが、東京オリンピック・パラリンピックを一つのベースとして作られることを目標にしてまいります。
- 共同通信コジマ つまり、その後も改良するが、20年までには何らかのルートは示したいという趣旨でよいか？
- 清水さいたま市長 そうですね。
- 朝日新聞マスダ 宇都宮市長に伺います。先ほど会議の中で、「いつまでも東京ばかりに頼っていてはいけない」と発言がありましたが、意味をもう少し詳しく伺いたい。そのような観点から、東日本、北海道、北陸の自治体がさいたまという場所で連携して何かを行う事に、どういう意義があると考えているのか。
- 佐藤宇都宮市長 北関東は特に傾向が強いが、例えば水戸、宇都宮、前橋、高崎は、常に東京を見てきました。東京の力は大きなものだが、交流人口や定住人口の増加の点では必要と思うけれども、それ以外にもやはり手を伸ばしていかないとはいけない。

また、色々な副産物が出てくるが、定住自立圏構想や連携中枢都市圏構想と同じ効果が出るような連携の取り方を期待していきたい。